

press release

-Power of Dreaming

Moe Nagata



少女のこころを
忘れないあなたへ

永田萌一夢みるチカラ展

新着情報 (12/18更新)

展覧会会場の様子

開会式及びイベントの様子

追加・豪華イベント情報

会 期:平成24 (2012)年12月5日(水)

～平成25(2013)年1月14日(月・祝)

休 館 日:12月26日～1月1日

開館時間:9:00～17:00(金曜日は19:00まで)

※12月5日(水)は10:00から。入館は閉館30分前まで。

料 金:一般1,000円(800円)

高・大学生600円(400円)

中学生以下無料

※()内は前売・20名以上の団体



●JR広島駅より約1km

●広島城より約400m

●市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白鳥線で「縮景園前」下車約20m

名勝「縮景園」とともに歩むアートの社

広島県立美術館

Hiroshima Prefectural Art Museum

〒730-0014 広島市中区上鞆町2-22 TEL (082)221-6246

http://www1.hpam-unet.ocn.ne.jp/ FAX (082)223-1444

press release

【展覧会会場写真】



1



2



3



4

- 1、永田萌さんの手をかたどったブロンズには、作家自身も使用する面相筆と梅皿が置かれています。その隣には、色彩鮮やかな新しい絵画作品が展示されています。
- 2、永田萌さんは、新しい画材にも積極的に挑戦しています。本展には、写真のほかにも展覧会開幕直前に完成した作品も含まれ、未発表作品をご覧いただける貴重な機会となっています。
- 3、絵画作品、イラストレーションだけと思われる方は必見。友禅染の染料で描いた絹絵作品も展示されています。フランスで高い評価を受けた作品群です。カラーインク等とはまた異なった魅力をお楽しみください。
- 4、本展では、絵本の原画も展示しております。誰もが一度は読んだことのある絵本の原画もお楽しみいただけます。



5



6



7



8

- 5、12月5日の開会式の様子。今回の開会式のために募集したキッズモデルも大活躍。かわいらしい開会式になりました。
- 6、作家によるギャラリートーク。作家自身から直接お話を聞けるとあって大変盛り上がりしました。
- 7・8、体験型ワークショップ「プロカメラマンによる妖精撮影会」では、ご家族で妖精になって記念撮影が可能です。背景はもちろん永田萌さんの作品。作品の世界に入り込んだような写真撮影ができます。



【展覧会内容】

「現実をしっかりと生きていないと、夢は描けない。」—永田萌の夢みるチカラ

愛と夢と希望をテーマに、妖精や花々を独自の世界観で表現し続ける永田萌。

自然に恵まれた兵庫県加西市に生まれ育ち、移り変わる季節の中で芽吹き、花咲く風景に、やがて精霊(妖精)の存在を信じるようになったそうです。両親にあたたく見守られた幸せな子ども時代を経て、永田は絵を学ぶために京都へ旅立ちました。

卒業後、グラフィックデザイナーとして仕事をしていた作者は、やっぱり好きな絵を描いていきたいと1975年にイラストレーターとして独立、1978年に始めての絵本『もえと妖精たち』を自費出版、これが永田萌の大きな転機となりました。『花待月に』で1987年ボローニャ国際児童図書展青年部門グラフィック賞を受賞、「ふみの日」シリーズなど記念切手も手がけ、近年は友禅技法を取り入れた絹絵やリキッドアクリル絵具など新たな領域にも果敢に取り組んでいます。

「現実をしっかりと生きていないと、夢は描けない」という永田萌の描く妖精は、現実の子どものフォルムに羽が描かれています。2年生と3年生の1学年の違いを描き分けるために、小学校の前でじっと観察し続けたこともありました。花を描くときには、植物の形態を観察に基づいて表現しています。妖精が花に座っているときは転がり落ちないように、花の中にいるなら背中が痛くないように、妖精たちが危なくないように考えられています。

永田萌の作品には難しい説明は必要ありません。見る人の心に直接飛び込んでくる豊かな色彩と思わず微笑んでしまう愛らしい妖精や天使たちは、私たちを優しく美しい世界へ連れて行ってくれます。

この展覧会では、永田萌の不思議な世界を203点の絵画作品等を通じてご紹介します。当館での展示のために、展覧会開幕直前まで描かれた新作も含まれており、モエ・ワールドを満喫していただける機会です。

※ 作家による講演会、ギャラリートーク、サイン会など、イベントも要チェック。ファンのお声に応じて、豪華な追加イベントも行うこととなりました。妖精の羽と衣装を身に着けてモエ・ワールドで記念撮影できる体験型ワークショップ(毎日開催)も大好評です。どうぞお楽しみに！

(主任学芸員 福田浩子)

Moe Nagata



【展覧会構成】

※内容および出品作品は、予告なく変更となる場合がございます。ご了承ください。

第1部 新しい描画作品—画材、技法への挑戦

永田萌は、透明感ある明るい色彩に秀でたカラーインクにこだわってきました。しかし、カラーインクの性質である耐光性の弱さを克服しようと、近年、取り組みはじめた新しい画材・液状アクリル絵具による作品の数々を紹介します。

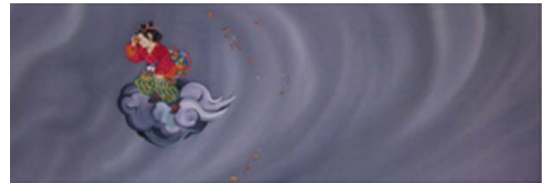
アクリル絵具は1940年代以降にアメリカで開発が進められた絵具。溶剤にアクリル樹脂を使ったもので、乾燥が他の絵具よりも早く、乾くと耐水性となります。永田が使用する液状のアクリル絵具＝リキテックス・リキッドは、2009年にリキテックス社が販売開始した新しい画材です。カラーインク作品よりも大画面に描かれた力強い色彩の迫力をお楽しみください。



《風の翼》2012年 アクリル、ガッシュ

第2部 絹絵(きぬえ)—京友禅とのコラボレーション

永田萌が活動の場とする京都には、江戸時代以降、友禅染め(京友禅)の伝統があります。2007年を中心に、友禅染めの技法を使って、絹地に友禅の染料で描かれたのがこのコーナーの作品群です。紙とは違う質感の上に展開する永田萌の違った一面を発見していただけるでしょう。



《雷童子》2007年 絹・染料

第3部 イラストレーション—空想、花そして、絵本の世界

「カラーインクの魔術師」の異名をとる程に、永田萌が初期から使用してきたカラーインク。最後のコーナーでは、カラーインクによる明るい色彩が特徴的な、みなさんが最もよく知っている永田萌の世界を3つのパートに分けて、満喫していただきます。

空想の楽しみ

永田萌の作品には、現実にはない空想の世界が広がっています。このパートでは、妖精や草花が、時空を自由に飛びまわって楽しんでいるようすを作者の視点を通して見ることができます。

花を描く

作者は空想の世界を描きながらも、身近にある植物の現実感を尊重しています。数多く描かれたスケッチに基づいて、植物のありように矛盾がないよう、リアルな植物が表現されています。

絵本

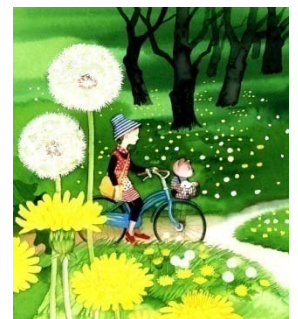
作者はイラストレーターとしてだけでなく、自身が文と絵を制作したオリジナル絵本や絵本の挿絵も描いています。このパートでは、最新のオリジナル・ストーリーである『クリコさんと笑わないクマ』全原画をはじめ、『マッチ売りの少女』や『ふしぎの国のアリス』などさまざまな絵本の仕事も紹介します。



《キュンキュンきのこ組》
2008年 カラーインク



《野原の遊園地》
1994年 カラーインク



『クリコさんと笑わないクマ』より
2010年 カラーインク

Moe
Nagata



【主要作品】



《白いらくがき》1978年 カラーインク

締切を迎えてもアイデアが浮かばなくなってしまった作者が、夢の中で見た絵を描いたというのがこの作品。初期の作品のなかでもユニークなエピソードを持っています。



《落椿》2007年 絹・染料

絹地に友禅技法で描かれた椿。フランスで展示した際に、フランスでは落ちた花は描く対象にならない(のにその落ちた椿を描いている)と話題になったとか。



《夕焼け色のコンチェルト》2011年 アクリル、ガッシュ

作者が好きな花のひとつ、ダチュラを描いた作品。トランペットに似た愛らしい形からエンジェル・トランペットとも呼ばれます。タクトを掲げた妖精が奏でる音楽は、きっとみんなを幸せにしてくれるはず。



《春からの手紙》

1988年 カラーインク

カラーインクで描かれた永田萌らしい作品のひとつ。たわわに実ったミカンの妖精(?)たちが、小鳥が運んできた手紙(=春)を受け取るシーンです。

Moe Nagata



【プロフィール】

デザイン会社、出版社、製菓会社でグラフィックデザイナーとして勤務した後1975年にイラストレーターとして独立。「カラーインクの魔術師」と呼ばれる技術と色彩感覚、花と妖精をテーマにした夢あふれる作風で、画業37年を経た今も第一線で筆をとる。

これまで絵本、画集、エッセイなど140冊を超える出版物の制作とともに、広告媒体や企業商品等のコマーシャルアートも両立。公共機関に設置される陶板画や舞台ホールの緞帳も含めて作品の展開は幅広い。郵政省(現日本郵便)発行の切手制作も、これまでに39種を手がけている。

1987年に『花待月に』(偕成社)でポローニャ国際児童図書展青少年部門グラフィック賞を受賞。

2000年に開催された国際淡路花博(ジャパンフローラ)では、公式ポスター、キャラクターマークを制作した。国内では数多くの定期的な巡回展の他に、デンマーク、台湾、フランスでも作品展を開き、積極的に可能性を開いている。

また近年、白い絹地に染料で描く「絹絵」に着手し、これまでの画材では不可能だった屏風や掛け軸などの展開にも意欲を燃やす。

行政・教育関連の各委員会にも多数携わり、社会貢献の意識を保つよう努力している。自身のマネジメントを業務とする株式会社妖精村を拠点に活動中。

※「永田萌オフィシャルサイト」より転用。



【作品について】

使用する画材はカラーインクです。透明度の高さや発色の良さが特徴で、永田萌が表現しようとする軽やかで美しい色彩の世界に一番適した画材です。紙は水彩紙を使います。

カラーインクは、もともとデザイン分野で使用されていた歴史の浅い画材で、日本でもカラーインクのみで制作する作家はごく少数とか。

その理由のひとつ、褪色という最大の弱点をかかえているため作品の保存が難しいことが考えられます。展示会場でも褪色への対処が最大の課題です。厳重な保存状態でも自然褪色をしますが照明を直接あてると、2週間目くらいから褪色が始まり、ピンク、紫、グレーなどパステル系のやさしい色合いから色が落ち始め、強めの赤や青色は反対に黒ずんできます。

ですから、皆さんの目にふれる展示会での作品はすでに描いた直後よりも、少し色が落ちています。「こんな色で描きたい」と思った作者の筆あとを正確にたどりたい、と思われたら、どうぞできる限り機会を逃さず原画展にお運びください。

またカラーインクは、湿度や気候などに左右されたり、思いどおりにならない自由人。その意外性と先達のない未開分野を開拓する魅力も大きく、永田萌にとって弱点はあっても一生つきあいたい画材のようです。

※「永田萌オフィシャルサイト」より転用。

press release

-Power of Dreaming



【どうしても参加したくなってしまうイベント各種】

作家によるギャラリートーク

日時:1月5日(土)10:00~

講師:永田萌(イラストレーター・絵本作家)

会場:2階展示室

※聴講無料(入館券が必要です)

サイン会

日時:1月5日(土)11:00~(このページ下部の追加イベント枠もご覧ください)

会場:1階ロビー

※当日先着60名。各日30分前から1階ロビーにて整理券をお渡しします。ご購入いただきました書籍、複製画にサインをします(お一人様1回)。

ギャラリートーク

日時:1月4日(金)18:00~ / 1月11日(金)11:00~

講師:当館学芸員

会場:2階展示室

※聴講無料(本展の入館券が必要です)

あなたも妖精になってみませんか?(体験型ワークショップ)

展覧会会期中、妖精の羽根とコスチュームを身に着けて、永田萌作品の世界の中で自由に写真撮影できます(妖精の衣装はこども用(90、110、130サイズ)・女性用があります)。カメラはお持ちください。

会場:2階ロビー

※参加無料 ※12月23日(日)は撮影会となります

プロカメラマンによる妖精撮影会

妖精になったあなたをプロカメラマンが撮影、その場でプリントしてプレゼントします。

日時:12月23日(日)10:00~、13:00~、15:00~

会場:2階ロビー

※各回20名程度、10分前から整理券をお渡しします。 ※参加無料(本展の入館券が必要です)。

お問い合わせ先:当館またはRCC文化センター082-222-2276

【熱~い声援にお応えして...追加で豪華イベント決定!!】

永田萌が読む、永田萌の絵本~永田萌からのプレゼント♪

日時:12月24日(月・祝)11:00-12:00(開場30分前)

会場:地階講堂

読み手:永田萌(イラストレーター・絵本作家)

※聴講無料、事前申し込み不要(先着200名)

対談・永田萌×越智裕二郎「永田萌の制作の秘密に迫る！」

日時:1月6日(日)11:00-12:15(開場30分前)

会場:地階講堂

出演:永田萌(イラストレーター・絵本作家)、越智裕二郎(当館館長)

※聴講無料、事前申し込み不要(先着200名)

サイン会

日時:12月24日(月・祝)13:30-、1月5日(土)14:30-、1月6日(日)13:30-

会場:1階ロビー

※当日先着60名。各日30分前から1階ロビーにて整理券をお渡しします。ご購入いただきました書籍、複製画にサインをします(お一人様1回)。



【開催概要】

展覧会名称

永田萌一夢みるチカラ展

開催クレジット

主催 広島県立美術館、中国新聞社

後援 中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、FMちゅーピー76.6MHz、エフエムふくやま、尾道エフエム放送、FMIはつかいち76.1MHz、FMハムスター79.0MHz

企画協力 株式会社妖精村

協力 オーシマスタジオ、専門学校文化服装学院広島校

会期

平成24(2012)年12月5日(水)～平成25(2013)年1月14日(月・祝)

休館日 12月26日～1月1日休館

入館料

一般:1,000円(800円) 高・大学生:600円(400円)

※ ()内は前売り・団体20名以上

※中学生以下無料

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳及び戦傷病者手帳の所持者と介助者(1名まで)の当日料金は半額

※東日本大震災避難者は無料

※特別展入館券で所蔵作品展もご覧いただけます。

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail. keiko_yamamoto@nomurakougei.co.jp (山本宛)

担当 学芸課 福田浩子

事業推進課 山本恵子